

桜縁

特集●スペシャルインタビュー

**「知的財産立国」実現が
日本再浮上の鍵**

弁理士 小池 晃

特別寄稿●中国製「やせ薬」を考える

北中 進（薬学部教授）

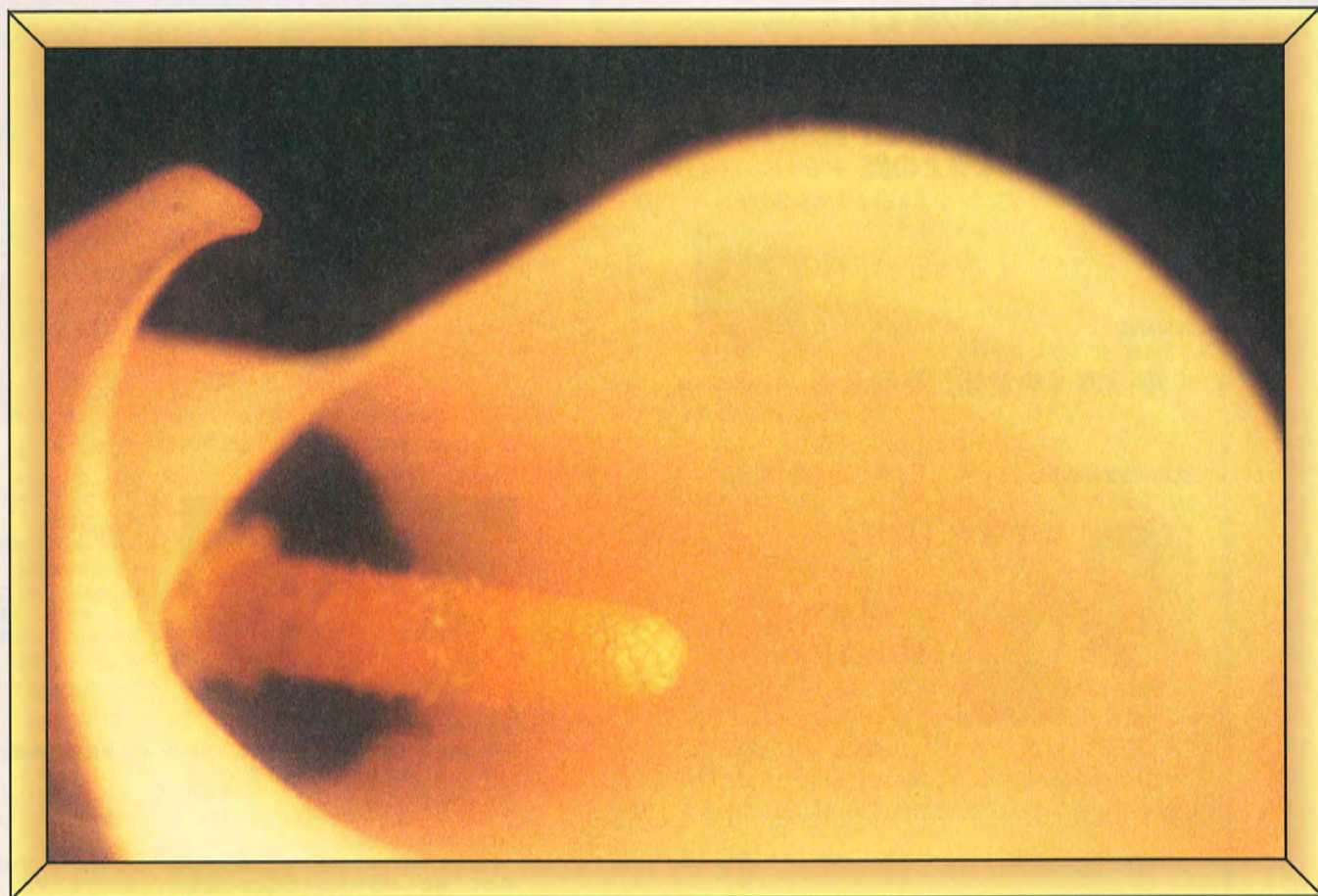
連載●袖すりあうも

さかなや「野村」

くつろぎの宿「梁山泊」

キャンパス・グラフ

校友会ニュース



タイトル：蝶恋花 清道美加さん（芸術・写真4）の作品〈推薦者・鈴木孝史芸術学部教授〉

CONTENTS

校友会会長挨拶・白田 貞夫
「校友会の自主自立をモットーに」3

日本大学総長挨拶・瀬在 幸安
「桜縁」創刊に寄せて4

校友会本部長挨拶・田中 英壽
「大きな正会員の輪を」5

特集・スペシャルインタビュー



小池 晃
「知的財産立国」実現が
日本再浮上の鍵6

特別寄稿

北中 進(薬学部教授)
中国製「やせ薬」を考える8

連載・袖すりあうも

お店紹介
さかなや「野村」10



お宿紹介
くつろぎの宿
「梁山泊」12



キャンパス・グラフ13

校友会ニュース14

お知らせ・掲示板15

「桜縁」の由来

日本大学(桜)と校友の皆さんとの縁を深めるだけでなく、校友の皆さん同士の縁も大切にしたいコミュニケーション誌を目指して「桜縁」(おうえん)と名付けました。また、校友の皆さんに母校の教育・研究活動や後輩達の学術・文化・スポーツ活動を“おうえん”(応援)してもらいたいという意味も込められています。

本学は総合大学とはいえ、キャンパスも離れているし、なかなか相互交流が取りにくかったのですが、最近は、総合学術情報センターの通信衛星を使った遠隔授業や、単位互換制度もでき、学部間交流が深まりつつあります。校友の皆さんも卒業してから学部間交流ができるように、この会報には、年齢層はできるだけ幅広く、学部・学科の枠を超えて一人でも多くの校友の皆さんを紹介していきたいと思っています。IT(情報技術)が発達し、インターネットのホームページや電子メールでの情報伝達が増えていますが、この会報「桜縁」を持って、紹介する校友のお店などをふらっと訪ねて、自分も日大の卒業生だと話しかけてみるのもいいのではないのでしょうか。きっと日本大学の話で盛り上がり、新しい縁が生まれるはずです。この会報をどんどん活用して、桜の縁が広がっていくことを願っています。



表紙の写真
学生の学術・研究活動を応援する目的で、本誌の表紙を学生のために広く開放し、活動発表の場にしたと考えました。

タイトル：蝶恋花
清道美加さん(芸術・写真4)の作品(推薦者・鈴木孝史芸術学部教授)
蝶は、何か陰があったり、不思議な魅力をもっている花にとまる。人の恋にも似たものを感じ、カラー(サトイモ科)を「蝶恋花」と名付けて作品集にした。「粒子の粗い写真にすることでカラーの怪しさを表現したかったのです。」と清道さん。
自信がある花、出しゃ張りな花、控え目な花…。花にもいろんな性格があって、撮影しながら会話することができるので、花が好きです。これからも、花やきれいなものを追い求めて、ずっと撮り続けていきたい、と抱負を語った。

校友会の自主自立をモットーに

日本大学校友会正会員の皆さんこんにちは。私は去る7月2日、東京・グランドパレスで行われた「役員総会」において、校友会長に選任されました白田貞夫であります。私は昭和32年歯学部を卒業し、以来地域医療活動に従事し、また、歯学部同窓会会長として日本大学歯学部のために働いてまいりました。現在は同窓会長と共に日本歯科医師会会長として、日本のみならず世界中を駆け廻って会長の職責に微力を捧げております。

さて、社会情勢は長期的な構造不況により、政務の急務として、日本の将来を先進国と肩を並べることが出来る様にすることが、最重要課題となっています。物価下落が相次ぎ、高まる失業率への改善策が見当たらず、また、銀行の不良債権も依然としてその解決策が出せず、国債の価値も開発途上国並みにランクされ、日本経済も立て直しのため、大きな転換期にきています。

この様な重大な時期の中にあって、我が日本大学は、私立大学では稀に見る良好な経営が評価を受けています。日本大学は文系学部、理工系学部、医歯系学部で14の学部と通信教育部を擁しています。日本大学の財政基盤は、勿論学生によって確保され、この理念は各学部、大学院、短期大学部がそれぞれの目的に従って、遂行されています。現代社会の様子がより重要になってきます。また、社会が大学院の教育内容を評価する時代には、研究の高度化、多様化がより重要になって来ると思います。そしてこの高度な教育の成果を、社会に還元することが大学の大きな使命であると考えます。

大学教育を大きく飛躍させるためには、全教職員が現代社会をしっかりと認識する意識改革が必要であり、校友会組織あげての協力は必要不可欠であります。

この度私は、歴史と伝統を誇る日本大学校友会長に選任され、その責任の重大さをひしひしと心にかけております。これからの日本大学校友会の使命は、瀬在総長の理念である未来戦略の実践に向け、森田理事長、田中本部長と共に校友会の団結、将来に向けての会務の充実発展、輝かしい日本大学作りを目的としております。この信念を実現するため、本年



白田 貞夫

昭和5年長野県生まれ。32年本学歯学部を卒業。35年に白田歯科医院を開設。58年には東京都杉並区歯科医師会会長、東京都杉並区学校歯科医会会長、東京都杉並区歯科医師政治連盟会長に就任。60年日本歯科医師会代議員となり、平成3年に同会副会長、6年に同会代議員会副議長を歴任。7年歯学部同窓会会長に就任。8年には本学理事。9年に日本歯科医師会代議員会議員、12年に日本歯科医師会会長、医道審議会委員(厚生労働省)に就任。13年校友会副会長を経て、14年に校友会会長となる。

度より「校友会正会員」制度を導入し、校友会が自主自立の精神をモットーに、母校の発展と校友会の限りなき発展に寄与するという規則を制定いたしました。

校友会の正会員の資格を得るためには、8,000円の年会費を納入して載りますが、この会費は、①各学部の育英基金として各学部へ寄付する。②日本大学本部校友会館の設立準備金とする。③卒業生の各種企業(ホテル、レストラン等)の恩恵(割引制)を受けられる。④日大フェア等全国の校友会との緊密な連繫を計り校友の社会的向上を目的とする。⑤14学部・通信教育部の校友会員との連携協力を密にし、情報化社会に対応する。その他目的達成のために随時事業を企画立案し、校友会の発展に寄与する。

この様な主旨のもとに21世紀にふさわしい新しい「日本大学校友会」が発足し、今後この推進に向けてスタートするわけですが、私は会長として次の様な信念を申し上げたいと思います。「どの様な組織団体であれ、会員の団結と協力が不可欠であり、目的遂行のためには、役員は会員の立場を十分に理解し、汗を流さねばならない。」ということです。本学は日本最大の総合大学であり、このことを誇りに思う校友会員は、常に会員間の連絡を密にし、組織の向上と活性化に努めなければならないと思います。

少子・高齢化社会が世界にその類を見ない程のスピードで到来した日本に於いては、あらゆる面で組織的活動が重要になります。特に私立大学の経営は難しさを増して来ることは間違いありませんが、幸い日本大学は、総長のすばらしい将来ビジョンの実現、森田理事長の財政処理の効率化・適正化により、私立大学の中でもトップクラスの経営評価を得ております。これも総長、理事長の努力は勿論ですが、これを強力にバックアップする教職員が一致団結し、同じ理念、目的に向かって邁進しておられる結果であると思います。勿論、校友会の皆様の後盾があってこそであり、会員の皆様、特に正会員の皆様には心より感謝と敬意を表する次第であります。

最後に日本大学の益々の発展と校友会のご活躍を心より折念申し上げまして、私の挨拶といたします。

「桜縁」創刊に寄せて



瀬在 幸安

昭和5年長野県生まれ。30年本学医学部卒業。35年本学大学院医学研究科博士課程（外科学）修了。40年フルブライト奨学研究員（米国のレゴン大学）。51年医学部教授。平成元年医学部長。2年副総長を兼任後、平成8年から第10代総長・短期大学部学長就任。現在3期目。

米国から帰国後の45年、日本初の狭心症・心筋梗塞バイパス手術に成功。57年には初の補助人工心臓の臨床応用に成功したことで知られる。座右の名は「現状維持は退歩のはじまり」。

学外では、公衆衛生審議会委員（厚生労働省）、大学設置・学校法人審議会委員（文部科学省）中国医学科学院名誉教授、中国医科大学名誉教授、アジア胸部心臓血管外科学会会長、米国ベイヤー医科大学客員教授、JAFSA会長、全国医学部長・病院長会議会長、大学基準協会理事、日本私立大学連盟常務理事、日経連常任理事など。ハンス・セリエ賞受賞など。

日本大学は創立以来、激動の時代をよく乗り越え、百有余年の長い伝統と社会的役割を果たしてきました。昨年、大学校友会では会則改正をおこない、新しく「正会員」の制度を規定しました。これからの校友会の実質的活動を展開する上で、その意義はきわめて大きいと思っております。

88万余名に及ぶ卒業生の実体の把握は、きわめて困難であります。総合学術情報センターの開設にともなって精力的に卒業生のデータベースの入力につとめ、44万人を明らかにすることができました。しかも平成10年からは、これら卒業生に「KIZUNA〈絆〉」をお届けし、文字通り母校との深い絆を形成しております。

この度、正会員の方々向けに、会報「桜縁」を創刊されるはこびとなりましたことは、校友会とともに歩み続けている日本大学にとっても、まことに的をえた対応と関係の方々々に敬意を表する次第であります。

さて、私立大学にとって何よりも大切なことは、「建学の精神」、「教学の理念」であります。国家の教学施策に基づいて開設された国立大学と基本的に異なる点であります。日本大学は日本精神にもとづき道統をたつとび、自主創造、世界の平和、人類の福祉に寄与するために、広く知識を世界に求め、深遠な学術研究と人材の育成を大学の目的および使命としております。この建学の精神に基づいて、これからの世紀、真摯な努力をかさね続けることでもあります。

日本大学は、わが国最大の総合大学であります。さらに世界の一流レベルの大学を目指し、教職員、学生ともども英知を結集しながら、質的充実を行っているところであります。特に6年前の総長就任以来、教学の府として、学内外から高い評価を得ております。

この度、さらに総長に推薦していただき、志を新たに、「建学の精神」を遵守しながら、多くの生徒、校友会員の皆様とともに歩んで行く所存であります。

さて、これからの主要な施策として、現在進行中の「21世紀未来戦略推進本部」の各部会での審議を積極的にすすめ、それら諸事項の完全実施であります。真に国際レベルでの競争原理に基づく学術研究のための総合大学院は、国からの多額の助成を得ながら、すでに各学部センターが建設・開設され、稼働し始めております。それらセンターの総合化のための本部、各学部研究所の再構築、学部・大学院の再構築、さらに都心、都内、首都圏、地方（三島、郡山）キャンパスなどの教学拠点の整備、充実、またこれら教学を支える総合大学にふさわしい財政計画などがあります。

そして、教育、研究の実質的施策のみでなく、世界的に評価される大学は、いずれも優れた文化施設への対応が大切となっており、この面からカザルスホールのもつ意義は、きわめて大きいと思っております。

これからの時代、ますます高齢化、少子化がスピーディーに進むなか、社会構造も激変し、新たに発生する知識社会の対応であります。すでに、本学では本邦に先駆けて、通信制大学院、グローバル・ビジネススクール、Nubicなど、社会人の入学や新産業創出などの対応をしており、ともに優れた成果をあげ、国内外から高い評価を得ております。

これからもスピーディーに進む時代、世界を鋭く洞察しながら、教学活動を前進いたしたく思っておりますので、よろしくご理解のうえ、ご支援、ご協力をお願いいたします。

大きな正会員の輪を



田中 英壽

昭和21年青森県生まれ。小学校低学年から相撲を習い始める。昭和40年本学経済学部に進学。相撲部の選手として活躍。3年のとき学生横綱。卒業後、本学農獣医学部体育助手兼相撲部コーチに。44年12月アマ横綱。以後、45年と49年の計3回アマ横綱を獲得。55年に現役を引退。獲得したタイトルは34にのぼる。同年、朝日体育賞受賞。58年相撲部監督に就任。平成6年JOC（日本オリンピック委員会）理事。11年本学理事に就任。他に日本相撲連盟専務理事、国際相撲連盟事務総長として、相撲の国際普及に努めている。13年校友会本部長に就任。14年本学常務理事。

校友会正会員会報「桜縁」の発刊に際しまして、多くの校友の皆様にご入会いただき、厚く御礼申し上げます。今年4月、大学で発行している校友向け広報誌「KIZUNA〈絆〉」第5号でご案内して募集を始め、7月にはPR用パンフレットを作成して、住所が判明している校友に案内を発送したところ、募集から半年経った現在の正会員数は約6,000人に達しています。今でも毎日申し込みが続いております。

「大学冬の時代」に入り、大学を取り巻く環境が大変厳しくなっている状況下において、今回、日本大学総長に三選されました瀬在幸安先生が中心となって6年前から「未来教学戦略プロジェクト」を推進してこられました。検討するだけでなく、その実行結果として大学院グローバル・ビジネス研究科、通信制大学院、Nubic（日本大学国際産業技術・ビジネス育成センター）などが既に設置され、国内だけでなく国際的にも高い評価を得ており、大学は一步一步確実に前進してきております。

その一方で、校友会の運営経費は、ほとんどを大学からの補助金に依存しているのが現状でした。大学が着実に前進しているのに、校友会だけが遅れてはいけません。しかも構想や検討を続けるだけでなく、瀬在総長のように速やかに実行に移さなければならないと、昨年9月から会則改正案の作成や関係者と数十回にわたる会議を重ねて、12月の臨時役員総会で「自助自立」の精神を基本とした会則に改正されました。そこで導入されたのがこの「正会員制度」であります。もちろん、この他にも役員会費の導入や役員の旅費負担廃止なども採用され、校友会の自助自立に向けて一歩前進し始めたわけです。

こうして皆様からいただいた会費は、校友の皆様が一堂に会し、校友同士または学生との情報交換や、親睦をはかる場所として利用する校友会館の建設や、全国各地で著名講師による講演会の開催、後輩である学生達への学業・体育・文化活動に対する支援などに活用させていただくことを予定しております。また、校友会都道府県支部、学部別部会、職域別部会に会費の何パーセントかを還付することにしており、それによって支部・部会の更なる活性化にもつながるものと考えております。

大学としての日本大学はもちろんのこと、卒業生88万6千名を数える日本大学の校友会組織は巨大であり、潜在的にも大きな力を持っております。会員の数が多くなればなるほど、より大きな事業やより多くの学生への支援活動ができるようになり、母校の社会的評価もますます高まっていくことと思います。皆様のまわりで、まだ正会員に加入されていない校友がいらっしゃいましたら、1人の会員が2、3人勧誘していただくだけですぐに2万、3万と、数の論理で会員が増えていきます。また、今年7月に行われた役員総会で「桜門会規程」が承認されました。正会員が20人以上集まれば企業や市町村などの単位で、校友会本部公認の桜門会が設立できます。正会員が増え、より多くの桜門会が設立され、既存の都道府県支部、学部別部会、職域別部会とも連携を持つことで校友会活動がますます活発になると確信しております。

21世紀の世界に翔く日本大学校友会を目指して、桜（日本大学）の縁を胸に、会員の皆様の今後ますますのご協力を心よりお願い申し上げます。

「知的財産立国」実現が 日本再浮上の鍵



小池 晃

昭和16年埼玉県生まれ。昭和39年法学部法律学科卒業、同年弁理士登録し小池特許事務所を開設。40年法学専攻科修了。49年名称を現在の小池国際特許事務所に改称。ソニーをメイン・クライアントとして幅広く業務を展開。平成8年賞状褒章受章。13年度日本弁理士会会長を務めた。

弁理士として特許権などの工業所有権を中心に権利の設定保護に関わってこれ、平成13年度には日本弁理士会会長を務められた小池晃さん。「特許のプロ」として日本の産業を見つめてきた小池さんは、閉塞感の続く我が国経済を打開する道は、特許権や著作権などの知的財産権を積極的に活用する「知的財産立国」の実現にあると、熱を込めて語られた。

弁理士は理系の法律家、知的財産権のプロ

— まず、弁理士というのはどういう仕事なのですか。

発明や考案を保護する特許権や実用新案権、商品の名前やマークなどを保護する商標権、すぐれたデザインを保護する意匠権、これらはまとめて工業所有権と呼ばれます。また、文学、音楽、美術、コンピュータープログラムなどの著作権、半導体集積回路の配置、会社や商店の商号といった無形の知的財産に関する権利を、工業所有権と合わせて知的財産権と呼んでいます。弁理士は知的財産に関する権利を設定して管理し、活用に至るまでの一連の行為を行う仕事です。

かつては弁理士の仕事といえば特許権の出願など工業所有権に関するものだったのですが、最近はネットワーク社会となる中で他人の著作物、たとえば音楽などのデータを権利者に無断でやりとりをするなどというトラブルが増え、著作権の保護が重要視されるようになってきました。この他、技術上のノウハウや取引先名簿など企業秘密に関わるトラブルへの対応、コピー商品の輸入を税関で差し止めるなどの仕事も行っていきます。

弁理士の仕事というのは理系の論文を読み、それを理解し

てまた論文を書くという仕事です。現在、わが国の弁理士4900名のうち、8割が理工系学科の出身で、2割が法文系の出身です。その法文系出身の人たちも理工学部の二部などに通い直して理系の勉強をしています。

権利侵害の裁判では弁理士が代理人として法廷へ

— 小池さんは昨年4月から今年の3月まで日本弁理士会の会長を務められました。会では、主にどのようなことに取り組まれましたか。

弁理士法が成立してから今年で104年目を迎えますが、私が弁理士会の副会長、会長を務めている間に、二度、法律の大きな改正が行われました。平成12年に行われた改正は「80年ぶりの大改正」と呼ばれ、弁理士の業務範囲を拡大したものでした。今年春の改正は司法制度改革の流れの中で行われ、弁理士に訴訟代理権が認められました。これも大きな改正でした。

これまで弁理士が代理人を務めることができたのは特許審判の審決取消訴訟のみで、権利の侵害を争う訴訟では訴訟補佐人を務めるだけでした。しかし、21世紀の裁判は知的財産権という目に見えない財産を取り扱うことが多くなってきます。ところが日本には理系の教育を受けた法律家は少ない。特許など知的財産権に関わる訴訟では、日本の弁護士さんは不得意な分野の代理人をやむを得ずやっている、というのが現状だったのです。

そのため、弁理士会としても弁理士を東京高等裁判所の正式な調査官として送り込むなど、努力を続けてきたのですが、

ようやく訴訟代理人として認められることになりました。これは日本の知的財産権にとって大きな前進となったと思います。

知的創造サイクルが確立すれば日本は活性化できる

— 政府の知的財産戦略会議に有識者代表として参加され、「知的財産戦略大綱」をまとめられたそうですが、どのような内容なのでしょう。

知的財産戦略会議は、知的創造サイクルを確立し、我が国の国際的な競争力を高め、経済や社会の活性化を図るためにどのような戦略が必要かを検討する場で、首相が開催します。メンバーは首相をはじめとする主要閣僚と学会、産業界の代表、弁護士、弁理士という専門家の代表で構成されました。今年の2月25日に会議の設置が閣議決定され、3月20日に第1回会議を開催し、集中的に審議をして7月3日には「知的財産戦略大綱」をまとめるという、スピーディーな審議ぶりでした。

この大綱には「知的財産立国」を実現するという政府の決意が明記され、平成17年を最終目標として集中・統一的に諸改革を実行することになっていて、この改革はいつまでにどの省庁が行う、というように諸改革のタイムスケジュールがすべて決められています。たとえば、大きな柱である「知的財産基本法」は来年の通常国会が始まるまでに成立させる、となっていますから、この秋の臨時国会で成立を期すことになっています。

産学官が連携するにはお互いのパイプが不十分

— 今年6月に京都で行われた第1回産学官連携推進会議にもパネラーとして参加されたそうですが、産学官連携の現状をどのようにお考えでしょうか。

日本は産業界と学会のパイプが不十分だと思います。日本の科学技術は水準が高く、基礎研究でもいろいろな発明や発見がなされている。しかし、どうも学者や研究者はいわば「象牙の塔」に閉じこもりがちです。ですから私は学者さんたちに、研究室に閉じこもらずに、産業界に出てきて基礎研究を商品化技術として活用できるように提供してください、と

よく言います。

また産業界にも、学者や発明者をもっと大事にしなければいけない、提供された技術でもたらされた利益を研究費に還元するようにしましょう、ともよく言っているのです。

知的財産権時代は「日本大学の時代」かも知れない

— 日本大学にもNub ic（ニュービック＝日本大学国際産業・ビジネス育成センター）という、研究成果を民間事業者へ技術移転するための機関があります。

Nub icから出てきた発明に関しては、私もその成果物の権利化をいくつか手掛けております。

実は私は日本大学ほど、この知的財産権時代にぴったりの大学はないだろうと思っています。日本大学は貴重な総合大学です。たとえば21世紀は、バイオ・ゲノム技術によって医療、農業や漁業が大きく変わります。日本大学は関連の学科でこれらの研究に総合的に取り組むことができます。他にも法律家がいる、科学技術を開発する学者・研究者がいる、芸術系の学部もある、医学部もある、歯学部もある。こんな大学は他にはありません。

ですから私は校友のみなさんにも、いよいよ日本大学のための時代が来たのだと再認識してほしいのです。ぜひ各学部に知的財産権講座を設けるぐらいの意気込みで、日本大学から創造されるさまざまな成果を大きく花開かせる努力をしていただきたい。そうすれば21世紀は、日本大学が知的財産立国を担う時代となるはずですよ。



中国製「やせ薬」を考える

薬学部教授 (生薬学)
北中 進

昭和24年東京都生まれ。47年本学理工学部薬学科卒業。49年富山大学大学院修了、62年薬学博士(富山医科薬科大学)。平成4年米国ノースカロライナ大学客員講師、5年日本大学助教授、7年日本大学教授。11年(中国)瀋陽薬科大学客員教授。14年深圳中薬及天然薬物研究中心客員教授。
学外では、日本生薬学会評議員、日本生薬学会関東支部委員、(社)日本植物園協合理事、(財)日本健康・栄養食品協会規格検討委員会及びハーブ規格検討委員会委員、茨城県薬種商販売認定試験委員会委員。



永遠の願い「痩身」……

「痩せたい」国をとわず世の中の女性はそう願っているようです。中国四川大学薬学院や瀋陽(しんよう)薬科大学との共同研究のため、年に数回おとずれる中国でも痩身用健康食品(やせ薬)は大きなブームを呼んでおり、多種類のやせ薬が薬局の店頭と並んでいるのをよく見かけていました。今回の事件を期に、問題のある製品は回収されたようで、8月に訪れた際には、激減していました。

現地の方に今回の事件について伺ってみたところ、日本でインターネットによって入手できる情報と大差なく、事件に関する認識が低いようです。そこで、あらためて今回の中国製やせ薬事件や、米国のやせ薬事件について考えてみました。



薬店での健康食品のコーナー

■危険な「やせ薬」の実態

7月12日(金)の朝夕刊の一面に「中国製健康食品で女性死亡」という見出しで、報道がなされました。内容は、中国で製造された三種類のダイエット用健康食品を購入・服用した男女12名が、肝臓の細胞が激しく破壊されておこる劇症肝炎や急性肝不全などの肝障害を発症し、女性1名が死亡、1人が生体肝移植手術を受けたというものです。服用していたダイエット食品はカプセル状で、茶剤や葛根などの生薬が原料と記載されており、服用開始約1か月後に、倦怠感や吐き気、黄疸症状を伴う肝機能異常を訴え、その後、服用をやめると症状が回復したというものです。

厚生労働省で成分を分析したところ、一部の商品から、医薬品にしか使用が許可されていない、食欲抑制剤の「フェンフラミン」や甲状腺ホルモンが検出され、いずれも成分表には記載されていませんでした。問題の食品は、インターネットなどを通じて国内でも簡単に購入できることから、同省では商品名(「御芝堂減肥胶囊」「紆之素胶囊」)を公表し、消費者に注意を促しました。

「フェンフラミン」について、米医学雑誌に掲載された研究論文によると、1年間服用した女性24人のうち、全員に心臓の弁膜に異常が、うち8人に肺の疾患が見つかり、5人は手術が必要という記載があります。また、23日間服用した女性が8ヶ月後に肺の疾患で死亡したケースも記載されています。その後、シンガポールや中国においても死者がでていることが



(上) 薬店(西薬(西洋薬)、中薬(漢方薬)、健康食品、化粧品が販売されている)
(下) カプセル剤の入った痩身用健康食品

報道されました。中国では、「フェンフラミン」などの成分が検出されたため、2000年中に生産禁止の処分を下しましたが、既に生産されていた在庫が市場に回収されていたようです。

しかしこのような状況下、「フェンフラミン」や甲状腺ホルモンが検出されなかったケースもあることから、医師からは、「甲状腺ホルモンで肝障害が発症する可能性は必ずしも高くなく、

共通して使われている生薬の成分の中に、肝障害を引き起こす物質が含まれている可能性の方が高い」との指摘も出ました。その後、原因不明の重症肝障害で受診した患者が「紆之素胶囊」を服用していたことから、不審に思った医師が民間研究所に分析を依頼した結果、「N-ニトロソフェンフラミン」と甲状腺末などの混入によると考えられる「トリヨードチロニン」が検出されました。一般にN-ニトロソ化合物は強い発癌性を有し、動物実験で人為的に肝臓癌を発生させる際に使われ、その毒性についてはよく知られています。また、「トリヨードチロニン」は甲状腺ホルモンで、基礎代謝が促進されるが、不整脈や頭痛、肝機能障害などの副作用があらわれます。今回の事件ではこの「N-ニトロソフェンフラミン」が肝障害を引き起こした原因物質と思われる。その後、国内では被害者800名以上(内死者4人)にのぼり、厚生労働省が注意を呼びかけている未承認医薬品は40品目程度にのぼっています。

一方、米国を中心としたダイエット食品の事件に「エフェドラ」があります。1993年以降、死者80人以上を出し、心臓発作や胸痛などの健康被害も大量に発生したことから、FDA(米食品医薬品局)は消費者に対し、副作用情報を提供し警告しています。この「エフェドラ」は日本向けのホームページ上で、「今、米国で人気上昇中のダイエット食品」・「激痩せの秘薬」などと宣伝し販売していました。日本では、「マオウ」「麻黄」といい、漢方薬に配合される生薬で、食品に使用することを禁じているが、個人輸入したものは薬事法の規制対象外となり、個人責任において使用しなければならないもので、危険性が伴うことを承知しなければなりません。

今回の「中国製やせ薬」や「エフェドラ」の例では、健康食品や未承認医薬品を個人がインターネットにより業者あるいは輸入代行業者から輸入したケースが多く、薬事法の規制をすり抜けてしまう新しい商法です。今後とも類似した事件が発生することが十分考えられます。

■上手な「健康食品」の利用法

漢方薬は、葛根湯、八味地黄丸のように、構成生薬とその分量が規定されているもので、患者の体質や病気の状態をみる「証」という漢方独特の治療概念によって処方が決定されます。今回のやせ薬は、生薬を含有はしていますが、漢方薬とは全く別のものです。《漢方薬は安全なもの》というイメージを利用し、分析が困難なように食欲抑制物質の化学構造を一部改変したり、分析が大変な甲状腺末を加えて健康食品として販売していたもので、健康を度外視した悪質なものです。

店頭には多種多様な健康食品がならんでいます。厚生労働省が許可を与えている『特定保険用食品』(病者用食品)や、「保険の用途・効果」を具体的に表示することを許可した食品である『特別保健食品』、(財)日本健康・栄養食品協会のJHFAマークの表示のあるものなどは安全な食品と考えられます。上手に利用していきたいものです。

OB・OGが経営している

お 店 紹 介

さかなや「野村」

野村 俊吉さん

(昭和47年芸術学部映画学科卒)

気兼ねない交遊関係を築きやすい雰囲気
生涯つきあえる友も見つけてほしい

映像の世界に没入する日々。

目にした映画は年間200本。

上野駅前から浅草まで続く東京・台東区の「浅草通り」。江戸明暦の振袖火事以降、市中の寺院が移ってきて以来、門前町として発達してきた。その名残りとしていまも稲荷町から田原町に至る道の両脇には仏具店が軒を連ねる。周辺には「まないた開き」の伝統行事で有名な坂東報恩寺や、江戸後期の地理学者・伊能忠敬が眠る源空寺など史跡も豊富。食器具の間屋として知られる「かつば橋道具街」も近い。

そんなユニークな見所いっぱい街に生まれ、育ったのが野村俊吉さんだ。祖父の代から続く鮮魚店を経営する一方、和食割烹「野村」も切り盛りする。チャキチャキ、生粋の江戸っ子だ。だが芸術学部卒という経歴が示すとおり、大学進学時はすんなりと家の商売を継ぐ気はなかった。「目指したかったのは映画監督。次にテレビのディレクターでした。長男なので心のどこかで引っ掛かってはいましたが、入学当時は夢一杯。家業のことはとりあえず考えるのはよそうと割り切ったのです」。

開かれたバラ色の未来の前には現実の色あせるもの。野村さ



●プロフィール

野村 俊吉

(のむら・しゅんきち)

昭和24年東京都台東区生まれ。本学卒業後家業の鮮魚店を継ぐ。平成2年より和食割烹「野村」もスタート、現在に至る。

んも同じように映像の世界へ没入していった。演出コースを選択し、理論や技術の習得に精を出すとともに、合間を縫っては映画館に足繁く通ったのだ。洋の東西を問わず目にした作品は年間平均200本。興味を抱いたものは何度も見返した。なかでもフェリー二の「8・1/2」は集中的に5回も鑑賞したほどだ。「お気に入りというよりも、難解な内容だったので、理解しようとの気持ちから繰り返し見たのです。しかし結局は消化不良のまま。何やら凄という衝撃は伝わってくるのですが…。で、導き出した答えはこれは自分にはつくりえない映画だ」と野村さん。

古今東西の名著と格闘。大学に通った価値も十分。

一方、学業のなかでも実際に短編の自主映画を制作することとなる。自らの手で脚本を書いて現場に出てメガホン片手に映像づくりに専念するようになっていった。巨大ゴミ捨て場として当時話題的であった夢の島をモチーフにしたドキュメンタリーも撮った。しかしのめり込めばのめり込むほど、総合芸術としての映画の奥深さを痛感するようになる。そこで次第に興味の対象は美術や文学・哲学までに広がっていく。その行き着いた先が「美しさとは何か」ということだった。4年次の卒業論文の主題もズバリ「美」。

「いま思えば、何を考えてそんなテーマを選んだのか(笑)。普通

的で最も難しいものですからね。でもやる気は満々。勢いにまかせて書き上げました」。内容はギリシャ神話の時代から現代に至るまで美はどう変わってきたかを追求したもの。遠大なテーマだけに完成したときには400字原稿用紙で300枚の大作となった。

「内容の多くは受け売りのでしたが、枚数が大量だけにアップしたときはさすが充実感がありました。しかしそれ以上に良かったのは卒論を通して古今東西の名著と格闘したこと。日大の、しかも芸術学部に入らなければまずは一生涯を通すはずのない代物ばかり。それだけでも大学に通った価値は十分にあったと思っています」と野村さんはトーンを上げる。

将来に向けての青写真をある程度明確に描いて入ってくる人間が多だけに、心を割って話し合える仲間もすぐにできるというのも芸術学部ならではの長所だったと指摘する。志も同じなら価値観も同じ。「なぜか懐具合までも似たような学生がほとんど」(野村さん)で、その意味ではキャンパス内には気兼ねのない交遊関係を自然と築きやすい雰囲気があふれていたようだ。

人を喜ばすのが好き。昼時は列をなす繁盛ぶり。

仲間づくりに持って来いの場で野村さんも交遊の幅を広げていった。大学時代の鮮烈な思い出の一つとして残っているのはそんな同期と意気投合して沖縄を旅したことだ。卒業後間もない昭和47年3月のことだった。「ちょうど沖縄返還の年。5月に本土復帰ということだったので、その前に一度見ておこうと思い立ち、卒業記念と称して友だち4人とともに現地に向かったの

す」。だが一時滞在のつもりが沖縄に着いた途端、気が変わった。真っ青な空と海に南国独特の景観……。それまでに触れたことのない大自然に一遍で魅了されたのだ。「もっと気に入ったのは沖縄タイムというか時間にせわしくないところ。一生住んでもいいと心底思ったほどでした」。

それで一応の区切りとなる本土復帰後も野村さんだけは居残り、アルバイトをしながら現地の生活を楽しんでた。だが、モラトリアムも長くは続かなかった。その年の10月に今は亡き、初代の祖父に迎えに来られて呼び戻されることになったからだ。むろん自身も最初から気にかけていたことではある。

そこで気ままな沖縄暮らしにピリオドを打ち、家業を継ぐ覚悟で帰郷した。小さい頃から手伝っていた商売で、周辺とはもともと顔見知りの関係でもある。したがって思っていたよりもすんなりと現場の仕事に入っていた。朝7時から夜9時という長くきつい労働にもすぐに慣れた。以来、鮮魚店の経営に腕を振るうとともに、平成2年には魚中心の和食割烹店も出店、3代目として底堅い商売を展開してきたのである。

現在も元気な父親と一緒に親子2代で鮮魚店の店頭立つ一方、割烹店は板前の弟と協力しながら充実メニューの提供に余念がない。その甲斐あって昼時は特に行列ができるほどの繁盛ぶりを見せる。まさに順風満帆といった趣きだ。「人を喜ばすのが根っから好きなので、いまの仕事は性に合っています。ただサービスが良すぎるので儲けは少ない。商売人としてはまだまだです」と本人は笑う。



●和食割烹さかなや「野村」

客席……25席

メニュー……魚料理を中心に多数・有名地酒各種

営業時間……【昼】11:30~13:30

【夜】17:30~22:30(土日祭日休業)

【交通】銀座線稲荷町駅下車1分

【住所】台東区東上野6-3-11

TEL&FAX:03(3841)4376

◎一口メモ

築地直送の新鮮魚を使った和食料理が美味。久保田、八海山などの有名地酒も充実。昼間は焼き魚定食(750円)と刺し身定食(900円)に、両方を合わせたボリュームたっぷりの刺し身・焼き魚定食(1200円)が目玉。ご飯もおかわり自由。列をなすほど混み合うので特に刺し身・焼き魚定食を賞味したい向きにはお早めに。

OB・OGが経営している

お宿紹介

くつろぎの宿「梁山泊」

柴崎 文康さん

(昭和49年商学部会計学科卒)

**日大は108人の英雄が会する梁山泊
多様な人材を集める懐の深さが魅力**

軽飛行機の空中散歩でクラブ活動に傾斜。

古くから銘仙やつむぎなど絹織物の産地として知られる秩父地方。自然豊かな土地で育った「梁山泊」の主人、柴崎さんが本学に入学したのは昭和45年のこと。商学部を選んだのは当時、実家が織物販売を営んでいた関係で、商売への関心が人一倍強かったからだ。とはいえ、学業一筋という考えはなかった。

悔いのない学生生活を送るために、とりわけクラブ活動には熱を入れようとの思いがあり、入学して間もなく物珍しさも手伝って、足を運んだ航空部が幸いした。「何しろ初めての経験。プロペラが回転する振動音が伝わってくるだけで興奮しましたね。もちろん空を飛び回っているときの気分は最高。一遍で軽飛行機の虜になってしまったのです」。この衝撃的な体験で、クラブ活動にのめり込んでいくこととなった。

軽飛行機への情熱もさることながら、航空部の2年先輩と知り合いになったのが思い深い。「その先輩は実にスマート。相手が誰であろうと自然体で



●プロフィール
柴崎 文康

(しばさき・ふみやす)
昭和26年埼玉県秩父郡小鹿町生まれ。本学卒業後は埼玉銀行(現あさひ銀行)入り。台湾留学、国際部などを経て退行。その後、くつろぎの宿「梁山泊」経営に携わる。現在西秩父民宿組合組合長も務める。

接することができるのです。当時はまだ珍しい外国人と行き合っても臆さず、フランクにあいさつをかわすのを見て素晴らしいと思いましたね。学生離れているというか、日本人離れているというか、人間かくあるべしというような物腰が自然に身についている。いまでも憧れの先輩です」と柴崎さんは言い切る。

家業の旅館業も板につき、忙しく動き回る日々。

充実した学生時代を過ごし、就職先として決定したのは、当時部銀の一つであった埼玉銀行。そこでも持ち前の頑張り、花形の国際部に籍を置くなど華々しい活躍をした。

だが順風満帆だった銀行生活も転勤暮らしが多いことから14年ほど前に終止符を打ち、いまは実家の商売替えて新しく立ち上げた旅館業を引き継ぐ身だ。宿の主人として仕事もすっかり板につき、奥さんと二人三脚で忙しく動き回る日々が続く。

東京から交通の便がいいことから、夏はご家族連れの観光や学生たちの合宿などで週末は込み合う。御泊りをはじめ、お食事、屋敷休憩や宴会も楽しめる。スタッフもたくさんかかえ、毎日楽しく働いている。旅館業にとっても厳しい時代だが、それを尻目に梁山泊はまさに不況知らずの盛況ぶりといえる。「しかしこれで満足することなく、今後も誰にも愛される旅館を目指したい」と話す。そんな多忙のなかでもときどき思い出されるのは懐かしい学生の日々だ。

「いってみれば日大は108人の英雄が会した梁山泊のようなもの。まさに個性豊かな人材の宝庫です。そうした多様な人材を集める懐の深さが日大の魅力だと再認識しています。今後、校友との交流も大切にしていきたいと思えますので、「自分は日大出身です」と是非声をかけてください」と柴崎さん。卒業生には飲み物などのサービスを考えているそうなので、この「桜緑」でも持って一度訪ねてみては。



●くつろぎの宿・心の故郷「梁山泊」

収容……100名/客室……18部屋/浴室……総大理石風呂「昇龍の湯」(男女各1)/宴会場……大小あり(ディスクラオケ付)/駐車場……100台収容/その他……送迎バス・直営菜園あり、キャンパスファイヤー可、
【交通】西武鉄道西秩父駅および秩父鉄道秩父駅から車で20分(5名様以上、ご予約の場合はバス送迎)
【住所】埼玉県秩父郡小鹿町大字般若260
TEL:0494(75)2654 FAX:0494(75)4034
ホームページアドレスhttp://www.rzp.co.jp

◎一口メモ

ご当地名物のシシ肉を中心に山の幸、川の幸を贅沢にあしらった野趣豊かな鍋料理「義人菜」が人気メニュー。特にこれからの紅葉シーズンはシシ肉がうまい季節なだけに一度は賞味したいところ。また雲の合間を駆け登る昇龍の暖簾が目を引き総大理石風呂「昇龍の湯」もお勧め。全国的にも珍しい純度の高いアルカリイオン泉(乳白色のにごり湯)で、抜群の美容効果を発揮するほか、アトピー症などにも効き目がある。

キャンパス・グラフ Campus Graph!

〈記事・写真提供 日本大学広報部〉

瀬在幸安総長三選 森田賢治理事長も再任

6月3日に開催された総長選挙管理委員会において、三選を承認された瀬在幸安総長が9月1日付けで正式に就任、同10日に開かれた理事会では森田賢治理事長が再任、常務理事に野崎良一、田中英壽、丸山實、秋山正幸、松田慎一郎の5理事が選任された。また、新副総長には佐藤三武朗国際関係学部長、大竹繁雄松戸歯学部長、大谷利勝生産工学部長の3教授が任命され、新執行部が発足した。

クリントン前米大統領に 名誉法学博士を贈呈

米国のクリントン前大統領に対する名誉学位贈呈式が5月21日、日本大学会館で行われ、瀬在幸安総長からクリントン氏に名誉法学博士が贈呈された。本学から名誉学位が授与されるのは49人目、米大統領経験者としては昭和35年のアイゼンハワー元大統領に次いで2人目。



八幡山総合体育館・ サークル学生会館完成

東京・世田谷区八幡山の環八道路沿いに建設を進めていた「日本大学総合体育館・サークル学生会館」が完成し、4月1日、同体育館で瀬在幸安総長、森田賢治理事長ら本部役・教職員、保健体育審議会やスポーツ部役員、学生音楽団体関係者、それに地元・八幡山町内会の代表ら約180人が出席して開かれた。



ホットな母校ニュースは 「日本大学広報」「日本大学新聞」 でどうぞ

広報部では、毎月15日付で機関紙「日本大学広報」(送料共年1,000円)を、季刊で「桜門春秋」(送料共年1,600円)をそれぞれ刊行しています。また、学生記者が取材・編集する「日本大学新聞」(送料共年2,000円)も学生の話や日大スポーツ満載で毎月発行中です。

●購読ご希望の方は下記まで

広報部 TEL 03(5275)8132
FAX 03(5275)8321
日本大学新聞事務局
TEL 03(5275)8144
FAX 03(5275)8331

●ホームページも開設中

大学の情報は、ホームページでもご覧いただけます。アドレスは
http://www.nihon-u.ac.jp

校友会役員総会が開催される

平成14年度の校友会役員総会が7月2日、ホテルグランドパレス（東京都千代田区）で開催された。今年は役員改選の年にあたり、15人の選考委員によって候補者を決め、新会長には日本歯科医師会会長で本学理事の臼田貞夫氏、監事は原田貞亮、穂積修一両氏の再任と新たに伊東純江氏の選任を満場一致で決めた。任期は平成17年度役員総会開催日まで。また、今回の役員総会において、新たに桜門会規程が承認された。



校友会業務分掌が決まる

校友会の事業を推進するために、総務、財務、企画、広報、組織の5運営委員会が設置され、7月15日の委員長会で各委員会の業務分掌が決まった。

- ①校友会館の設置・運営（財務）
- ②会報、会員名簿の発行及び管理、その他の出版物の発行（広報）
- ③各種研究会、研修会、講演会の開催（企画）
- ④日本大学から諮問を受けた事項に関する答申及び意見の具申（総務）
- ⑤日本大学学生等の募集及び就職への支援（総務）
- ⑥会員の福利厚生等に関する事業（総務）
- ⑦日大iカードの普及への協力（広報）
- ⑧教職員の教育・文化奨励等に対する助成（企画）
- ⑨国際交流事業（組織）
- ⑩準会員（学生）の学業、体育及び文化活動に対する助成（総務）
- ⑪準会員（学生）の福利厚生に関する助成（総務）
- ⑫その他必要とする事業（総務）



桜門会公認受付始まる

総会で「桜門会規程」が承認されたのをうけ、桜門会の公認受付を始めた。条件としては、正会員加盟者が20人以上集まり、校友会会長宛てに会則や会員名簿を記載した申請書を提出することで、校友会公認団体としての桜門会が設立できる。規程については「日本大学校友会会則」（本誌に同封）を参照。

これにより、会社や地域単位で本部公認の桜門会を設立すると、校友会本

部役員を1人選出することができるようになる。

申請方法等、詳しいことは、校友会本部事務局庶務課〈電話03(5275)8143〉まで。



お知らせ・掲示板

このコーナーは皆さんからの手紙や電話での御意見、御質問を紹介し、他にも写真、詩、短歌、エッセイなどの作品や、本誌で紹介したお店などに行って来ての感想なども募集していますので、「桜縁」係までお寄せ下さい。

●校友会子女入試制度導入を推進しますと案内に書いてありましたが、その後はどうなっているのでしょうか？（同様の問い合わせ12件）

昨年9月27日に「日本大学校友推薦入学制度導入に関する要望書の提出について」と題した文書に、会長、副会長、監事の署名、捺印を添えて校友会名で日本大学総長、理事長宛に提出しました。校友会支部および地域社会において、校友会子女推薦入試導入に対して要望の声が高か

ったこと、特に自家営業者からは子女の知識修得は、家業存続に向けての切なる願望であることなど、校友の声を代弁する形で、要望を大学側に伝えました。その後、大学内に「校友会子女推薦入試導入検討委員会」が設立され、現在、検討を続けている最中とのことです。

現行の入試制度自体が、学部によってさまざまのため、公明正大な実施に向け、各学部長をはじめ、有識者を委員に入れ、慎重に審議を重ねています。正式に要項などが決まったら、この会報で随時紹介していきますが、来年度には間に合わない可能性があります。

●会員証が届きましたが、何かデザインやカード自体が質相に感じます。学部のロゴマークは、学生にデザインさせるなどしてとてもすばらしいです。次回作るときは、もう少し検討してはいかがでしょうか？（同様の意見3件）

校友会活動の自助自立や、大学・学生への支援活動のために集められた皆さんからの貴重な会費ですから、なるべく無駄な経費は支出したくないという前提の上で、この会員証を製作しました。しかし、御意見のように学生のアイデアは、プロデザイナーを超えるすばらしいものもあると思いますし、学生の創作活動を支援す

るという意味もありますので、来年度以後、学生に作品を募ってみる事も検討したいと思えます。

なお、皆さんからいただいた会費収入や、校友会全体の予算、決算については、毎年、役員総会後の会報で収支報告を行うことが、会則第35条で定められています。

○インフォメーション

- ◎住所・勤務先がお変わりになれたら…住所・勤務先等に変更がございましたら、必ず本部事務局までお知らせください。電話、FAX、メールいずれの方法でも結構です。〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学校友会本部事務局校友課 TEL 03(5275)9300 FAX 03(5275)8330 E-mail: koyu@adm.nihon-u.ac.jp
- ◎会員証を紛失されたら…会員証を紛失された際はすぐに本部事務局までご連絡ください。再発行させていただきます。
- ◎新規会員を紹介したい…新規会員をご紹介くださる方は、本部事務局までご連絡ください。資料を送付させていただきます。

○お便りの方法

この会報は1人でも多くの校友の皆さんを紹介し、校友の皆さん同士のコミュニケーション（縁）を深めていただきたいと思います。お店やお宿を営んでいる校友に限らず、ユニークな先輩や後輩がいるとか、自分を紹介してほしいなど、自薦他薦を問いませんので、事務局までお知らせください。

本誌への情報提供、御意見、お問い合わせの方法は、

- 1 封筒、ハガキで 〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学校友会本部事務局校友課「桜縁」係まで
- 2 電話、ファクシミリで TEL 03(5275)8146 FAX 03(5275)8330
- 3 電子メールで E-mail: koyu@adm.nihon-u.ac.jp

編集後記 広報委員長・今村忠雄
正会員広報誌「桜縁」の創刊号をお届けいたします。「桜縁」の輪が広がり、校友会の活動のより一層の活性化を祈念してやみません。皆様のご意見をお待ちしています。

広報委員会
委員長 今村 忠雄 副委員長 猿渡 光
委員 竹井 哲也 中村 克夫 渡邊 和子
穂積 修一 石井 宏 紙本 勲
萩原 正芳 横須賀 靖 鈴木 弘文
大橋 治彦 中島 正博 呉屋 正盛